さいたま市立大原中学校 学校だより

新しき光

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357
WEB https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

第７号
令和６年１１月１日発行

大切なもの

校長　越智　宏明

合唱コンクールの最後、この日二度目の全校合唱「大切なもの」。ホール中に響いた生徒たちの歌声から、曲名のとおり、本当に「大切なもの」が何なのか教えてもらった気がしました。

１０月は、大原中の生徒たちからたくさんの感動をもらった１か月となりました。新人体育大会では多くの部活動が好成績を挙げ、見事に県大会出場の切符を手にしました。また、惜しくも志半ばで敗退した生徒たちも最後まであきらめずに立ち向かうその姿勢に熱いものが込み上げてくるのを覚えました。

５日と６日に開催された上木崎大原地区の秋祭りでは３０名以上の生徒が参加してくれました。初日は露店の手伝い、二日目は神輿を担いで、与野駅から足立神社まで、約３時間かけて練り歩きました。露店でも神輿でも生徒たちの元気な掛け声が響き渡っていました。特に二日目、神輿が最後、足立神社に到着する際は、自然と皆で校歌を歌い出し、それを聞いた大人たちの多くも一緒に声を合わせて、即席の大合唱団が結成されました。ひと際大声で歌っていた今年８０歳になるという男性が「私も大原中の卒業生なんですよ。久しぶりに校歌を大勢の生徒さんたちと一緒に歌えて嬉しい…」と感無量の姿で歌っていらっしゃった姿にこちらも思わずもらい泣きしてしまいました。

２２日にはさいたま市中学校駅伝競走大会が開催されました。女子は見事４位入賞で県大会出場を決めました。男子は途中まで先頭グループに食い込む健闘を見せましたが、結果は２２位と、残念ながら男女アベック出場はなりませんでした。しかし、男子は女子の県大会出場を自分のことのように喜び、女子も男子の走りを最後まで声を枯らしながら応援している姿が印象的でした。

そして、２６日に行われた校内合唱コンクール！この日を迎えるまでの生徒の頑張りは、正に特筆ものでした。新人体育大会終了後から放課後のクラス練習が始まりました。校長室は３年生のフロアにあるのですが、初日からものすごい音量の歌声が飛び込んできたのです。ただそれは、とても合唱と呼べるものではなく、どうやら一部の男子が大声を出して面白がっていたようです。それが隣りのクラスとの大声合戦のようになり、「合唱」というよりは、「絶叫」が校舎のあちらこちらで響いていました。

しかし１週間、２週間と経つうちに、その「絶叫」が、クラスとしての「調和」をもつように感じられるようになりました。ソプラノ、アルト、テノール、バスというそれぞれのパートがただ単に自分たちの声が大きければ良いという考えではなく、自分たちがどのように歌えば他のパートがより輝けるかということを意識しているように感じられました。そして迎えた当日の合唱コンクール。開会式に続いて、全校合唱として「大切なもの」を歌いました。会場中に生徒たちの美しく澄んだ歌声が響いた時、私は今回の合唱コンクールは素晴らしいものになると確信しました。そして予想どおり、ステージに上がった生徒たちは誰も皆堂々としていて、その背後には眩いまでのオーラが感じられました。コンクールを名乗る以上、どうしても順位は付きます。結果に歓喜する生徒も悔し涙する生徒もいました。しかし、それは本気になったからこそ味わえる思い。結果以上にここまで皆の力でやり遂げたという「軌跡」を誇りに思ってほしいと思います。

表彰式の後、私は生徒たちに、わがままなお願いをしました。全校合唱「大切なもの」をもう一回聴かせてほしいと。生徒たちから拍手が起こり、指揮者と伴走者の生徒が再登壇しました。生徒が全員その場で起立し、私はただ一人、一番の特等席、即ちステージの上で全校合唱を聴かせてもらったのです。

「空にひかる星を　君と数えた夜…」。歌い出しの瞬間、鳥肌が立ちました。これこそ正に「美爆音」！

スポットライトが逆光となって見える生徒の姿は神々しくさえ見えました。心が一つになった瞬間！

本当に「大切なもの」は嬉しいんだか悲しいんだかわからない、そうしたものを全て乗り越えた先にある、言葉にさえできない不思議なものなのではないかと、今回の合唱コンクールで、そう思いました。